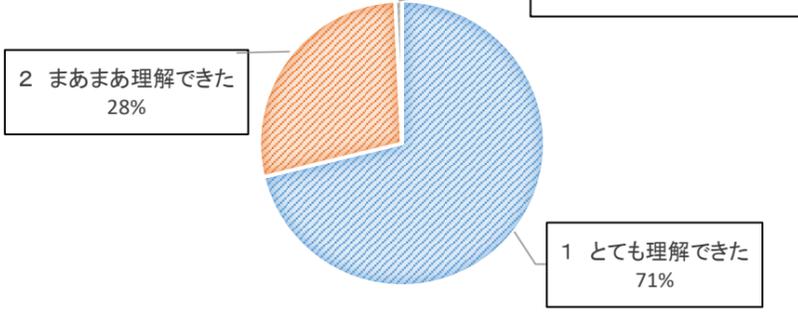
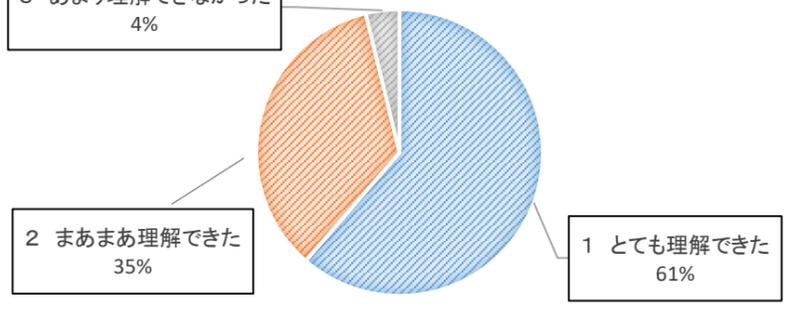
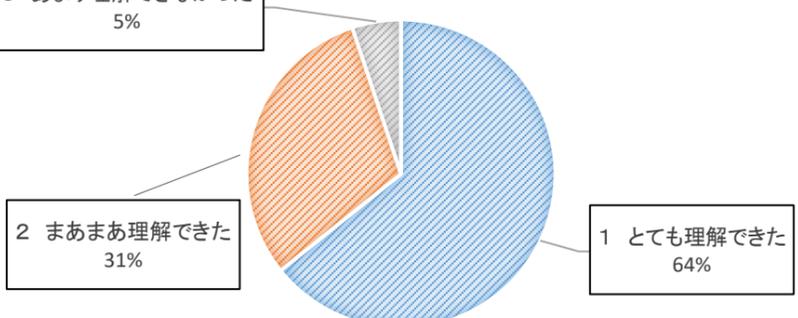
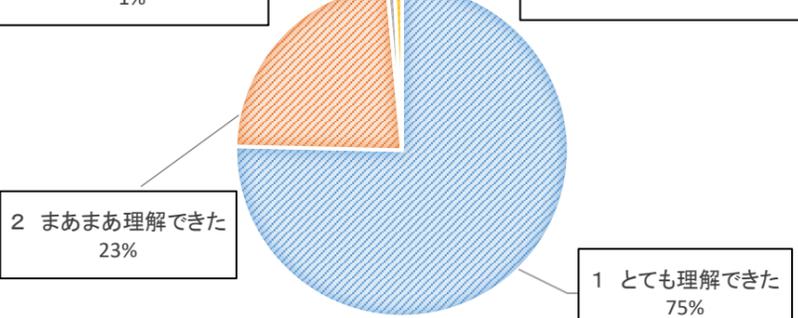


令和6年度 地域学校協働活動コーディネーター養成講座【第2回】 振り返りアンケート集計

Q: 事前学習用動画の内容の理解はできましたか？ 1: とても理解できた 2: まあまあ理解できた 3: あまり理解できなかった 4: ほとんど理解できなかった	理由等 (一部抜粋)
<p>【動画①】「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」</p>  <p>1 とても理解できた 71%</p> <p>2 まあまあ理解できた 28%</p> <p>3 あまり理解できなかった 1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●動画を視聴した後、再度、本校での活動の振り返りができる内容だった。 ●社会に開かれた教育課程の実現には、学校・保護者・地域が子供を中心にベクトルをそろえることが大切である。 ●教育課程を学校だけでなく、地域と考えていくことも必要だと知ることができた。 ●学校の課題、地域の課題と育てたい子供の力を共有することから始めたい。 ●これからの時代を担う子供たちの成長を学校と社会で見守っていくことが、今の大人である自分にとっても必要だと思った。 ●地域のリソースを活用することが、新たな可能性を発生させるキーとなることを知った。 ●熟議や学校運営協議会での内容を教育課程に位置付けていくことが必要と感じた。
<p>【動画②】「広島県が進める教育改革 一県立学校の取組を中心に」</p>  <p>1 とても理解できた 61%</p> <p>2 まあまあ理解できた 35%</p> <p>3 あまり理解できなかった 4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●紹介された内容は分かり、それを自校のような大規模校にどう生かせるか、考えることができた。 ●二校の県立学校の取組内容の実践を知り、地域とのつながり方や活動の進め方の参考となった。 ●取組の具体例の紹介があり、講座受講への意欲が高まった。 ●紹介された二校は、山間部の小規模校の例であったが、都市部の学校の例も知りたい。 ●生徒はいろいろな地域から集まってくるが、県立学校の教科の特色と地域の実態を考えて、取組を進めている。 ●好事例から実現までのプロセスのイメージがつかめた。 ●実習が含まれる学科では、活動が分かりやすくやりやすかったと思った。 ●大卒者に特に期待する資質・能力の分析について、とても参考になった。
<p>Q: 講義・熟議演習の内容の理解はできましたか？ 1: とても理解できた 2: まあまあ理解できた 3: あまり理解できなかった 4: ほとんど理解できなかった</p>	<p>理由等 (一部抜粋)</p>
<p>【熟議演習】社会に開かれた教育課程の実現に向けて</p>  <p>1 とても理解できた 64%</p> <p>2 まあまあ理解できた 31%</p> <p>3 あまり理解できなかった 5%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校と地域はお互いがつながりたいと思っている。つながるためには、お互いどうしたいかを知ることが必要だ。 ●地域との対話をしっかりしていくことで、学校と地域のニーズを結び付けることができると思った。 ●グループで話をしていると、地域の方と学校側で気持ちが通じる場所がたくさんあり、協議をしっかりとすることで、とても良い活動に結び付けられそうだった。 ●なぜ、教育課程を地域等と共有するのか、地域とともに教育課程をつくっていくのかについて考えることができた。 ●学校が考えていること、地域が考えていることのギャップも協働につながることをワークで確認することができた。 ●付箋を使って、学校と地域の願望を書き出し、それをどのように実践したらよいかということを現場の方々に聞くことで、私たちがどのようにつなげていかなければいけないのかを理解できた。 ●社会に開かれた教育課程の3つのポイントの説明が分かりやすかった。演習をすることでお互いの情報で知らないことがより理解できた。 ●協議時間が短く、お互いの意見を十分に話し合うことができなかったのが残念だった。
<p>【講義・熟議演習】活動プランづくり</p>  <p>1 とても理解できた 75%</p> <p>2 まあまあ理解できた 23%</p> <p>3 あまり理解できなかった 1%</p> <p>4 ほとんど理解できなかった 1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●どんな児童生徒を育てたいかを明確にして、活動プランを考えていくことが重要である。 ●実際に活動プランづくり(ワークショップ)を行い熟議することで、いろいろな人の考えでよりよいプランになっていった。 ●事例を学び、すぐ実践に落とし込むためのワークと組み合わせるので、流れを考えやすかった。 ●活動プランづくりで地域の方とアイデアを出しながら、活動プランをつくっていくのはとてもよいと思った。 ●ワークショップ形式なので、自分事として考えることができた。 ●多様な立場の方とワークショップをすることで、いろいろな考えや思いにふれることができた。 ●立場の違う参加者同士が1つのプランを考えることで、お互いの困りごとや願いを深く理解することができた。 ●共有の場を定期的に設けることが必要だと分かった。そこから、互いの思いや願いを共有できたり、人材バンクが広がったりすると分かった。
<p>Q: 研修会で学んだこと【自由記述】 (一部抜粋)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●地域と学校が顔見知りになり、学校と地域で連携し、できることを充実させていくことが大切だと思った。地域と学校と家庭で同じ思いをもって、子供たちを育てていきたいと思った。 ●学校と地域がお互いの情報を意外と知らないことが分かった。学校と地域の重なりづくりについて、地域の市民センターの役割にも関係が深く、社会教育に活用できる気付きがあった。何度も対話を重ねることが大切ということが実体験できた。 ●他市の先生方と同じチームでしたが、子供たちの自主性、アイデアを大切に考えられていた。大人が与えるだけでなく、大人は見守り、子供たちは自分で考える力を養うことも大切だと思う。 	

- 教育課程に基づいて、学校と地域が協働して教育活動に関わる活動プランをつくっていくノウハウを学ぶことができた。
- コーディネーターの役割や地域と学校をつなぐ際のポイントについて、より明確に理解することができた。学校(児童・生徒)が地域に貢献できること、地域が学校教育課程に貢献できるよう、取り組みたいと思う。
- 活動プランづくりが難しかったけど、たくさん話しながら進められて楽しかった。CSもこんな風に、人と人が直接関わることが一番大切だと改めて感じた。
- 先生が目指すものを実行していくにあたり、地域ならではの発想を生み出し、先生としっかり話した上で計画することが大切だと学んだ。
- 活動プランをどのようにして、組み立てていくかが具体的に理解できた。学校と地域の求めているものを擦り合わせて、双方がWinWinになるように活動を作り上げることができたと思う。
- 地域にある魅力(人・もの・・・)を出し合い、それを活かして魅力ある教育内容を先生方とどう創り上げていくか・・・(他地区の課題を解決するための活動プランを考えるを通して)方向性が見えてきたように思う。
- 1人で考えるのではなく、グループで協議することで、より具体的なプランを考えることができたので、自分の地域でもいろいろな方とディスカッションしていきたいと感じた。

Q: その他【自由記述】 (一部抜粋)

- いろいろなことをうちの学校に当てはめたらどうなるのかという「？」を持てたので、それを3回目までに考えていきたい。
- ワールドカフェも含め、たくさんのプランや素敵な参加者に会うことができ、感謝している。一歩踏み出して、形にしていければと思う。
- やり方が分かったので、自分の学校運営協議会において次なるアクションに向けて、準備できる手ごたえを感じる事ができた。
- 聞きたいお話もたくさんあったが、時間が短すぎて残念だった。
- いつも話題になるのは、打合せ時間や予算のことである。そのあたりの好事例があると、参考にしたい。